



(4) 「地図ナビ」を支える地図情報システムと北京靈図 (Lingtu) = 携帯向けコンテンツサービスの最新動向 (2)

野村綜研(上海)咨询有限公司

前回では、携帯を用いた「地図ナビ」の今後の可能性と課題について述べた。今回は、これらのサービスの発展を支える地図情報システムの現状について紹介したい。

ナビゲーション・全地球測位システム (GPS) 関係のソリューションを開発する会社は中国に200社以上もあるが、その中で業界大手の「北京靈図軟件技術有限公司」(以下、「靈図」と称す)が、昨年5月、Gobi Partnersをはじめとする合計6社から総額3000万米ドルのベンチャーキャピタル投資を受け、業界内で大きな話題を呼んだ。

なお、中国の大手GIS (地理情報システム) 会社 (上位5社) は以下の通り。

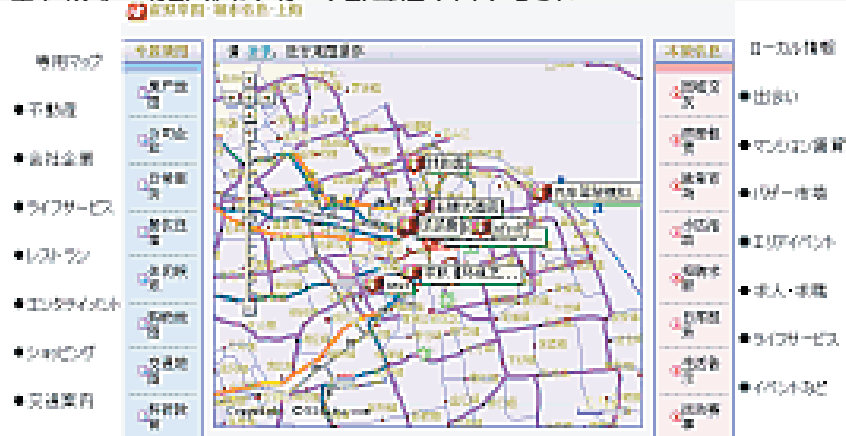
1	北京NaviInfo技術有限公司
2	上海暢想電腦有限公司
3	北京高德軟件有限公司
4	北京靈圖軟件技術有限公司
5	北京瑞圖万方技術有限公司

(「2005年中国自動車通信およびナビマーケット調査報告書」、水木清華より)

中国では、開発能力や秘密漏えい管理などが高いと認定された企業に「甲級位置誘導電子地図作成資格」というライセンスを認めているが、「靈図」は早くからこのライセンスを取得。100人以上の技術者を有する強い開発力をバックに、自社保有の地図データバンクの上に地理情報技術、通信技術およびGPS技術を駆使して、インターネット・自動車・モバイルの3つの端末すべてに、個人向けサービスやB2Bソリューションを提供している。

例えば、インターネット上では、提携ポータルサイトに地図システムを提供するほか、同社独自の地図ポータルサイト「51ditu.com」を運営している。他の地図サイトと同様、レストラン、エンターテインメント、カーナビなどの検索機能を提供しているのに加えて、出会いBlog系の「バーチャル中国」が今大人気となっている。

発信側が位置情報を地図上で編集・公開することができ、読者側もあるいはカテゴリーごとに地図上で相手を探索することができ、サービスが受けられている。



バーチャル中国 (「北京靈図」のHPより)



PDA 向けサービス
(「北京靈図」のHPより)

一方でモバイル向けには、現在中国2大キャリア向けにそれぞれ「星図業務」(物流ナビ、GPS One + BREW)、「愛之星」(キッズナビ、GPS One + CDMA1x、合計20省)というコンテンツサービスも展開している。独自の立体画像 (3D) 技術を保有しているため、モバイルの方が第3世代 (3G) に移行すれば、立体化されたモバイル地図を利用して何か面白いサービスを開発してくれそうである。

今後、ますます競争が激化して、寡占化が進むであろう地図情報システムの業界では、地図のメンテナンスに補う豊富な資金力と、開発力の基盤となる優秀なSEを引き付ける企業ブランド力が問われることになる。同社も米国上場を予定しており、このあたりの対応に注力している。(許文 情報通信コンサルタント)